明禅寺合戦戦死者首塚碑

B-6

・明禅寺は上道郡幡多村大字澤田にありました。
永禄１０年沼城主宇喜多直家が精兵５千を率いて、備中三村元親の率いる二万余の軍勢を打ち破りました。
世に「明禅寺崩」という激戦で直家が一代の大勝戦をしました。
弘化２年に大森純則が中島に首塚碑を建て三村軍の亡霊を慰めています。
（高島村史〔水藤千代造編集・発行、昭和12年8月15日〕より）

天満宮

B-6

・菅原道真を祭神とするこの地の氏神で、矩形に圍した１,１５９坪（約3,825㎡）の社地に、東面して社殿が立っています。今在家の天満宮は吉備温故秘録に「五霊天神宮」と載せており、明治になって現在の社名に改めました。社殿は一間社流造亜鉛板葺の本殿と入母屋造の拝殿、切妻造の幣殿、三間一戸の随身門など。今在家一帯は天神様があるので落雷しないと昔から言われています。旧社格は村社。
（岡山市史、宗教教育編〔岡山市史編集委員会編集・岡山市発行、昭和43年3月30日〕より）

八幡宮

（備前八幡）

B-7

・元和6年に池田忠雄が創建しました。延宝四年に池田綱政が再興し、同年11月8日に山城国男山から瀧宮と社領地と神饌料の寄進を受けましたが明治6年改革により廃止となりました。
（現地解説板より）

おすすめルート《JR高島駅》

湧水跡

D-6

・かつてこの付近は、中井村と呼ばれた地です。
古代は、旭川の氾濫原で湿地帯でありました。万治4年(1661)の絵図には、村の周辺に「このふけ四尺寸足入」などと記されていました。「ふけ」は足がぬかるむ深田のことです。村名の起こりは、清水用水の中に井筒があって清水が湧きだしたので、川中の井を略して中井としたといわれています（溫故秘錄）。そのため、この付近には、多くの湧水、井戸が点在していましたが、現在ではその数も少なくなっています。
（岡山の地名〔岡山市地名研究会著、岡山市編集・発行、平成元年4月１日〕より）

備前国庁跡

（岡山県指定史跡）

C-5

・国府は律令制下の各国ごとに設けられた地方統治の役所で、備前国の国府は旧上道郡高島村（現岡山市）国府市場を中心にした地域であったと推定されています。国府の西辺に「長森」と呼ばれる長方形の土壇が残り、この地に「国長宮」という小社が祭られています。「国長宮」は「国庁」、「長森」は「庁の森」を示していると考えられており、付近に「北国長」・「国長」・「南国長」などの地名も残りこの地を中心にして国府の核をなす国衙（国庁）が所在していたと想定されます。所在地の周辺には賀田廃寺・幡多廃寺などの古代寺院跡や国府関連施設の総社宮もみられ、この一帯は古代の備前国内では最も栄えた所であったと推定されます。昭和34年3月に県の史跡に指定されました。なお、平安時代の史料に「備前の国府御野郡にあり」と記されていますが、備前国府はもとはこの地域にあり、旭川を挟んで対岸の御野郡に一時移されたとみるのが妥当です。
（現地解説板〔岡山市教育委員会、平成2年3月〕より）

素戔嗚神社

C-5

・社伝によると正徳2年(1712)に池田綱政が京都の祇園寺にある神社より祭神を迎えたのが、この神社の創設であると伝えられています。この神社より北部一帯が祇園と呼ばれるのもこのためです。鳥居をはじめ、石造狛犬、絵皮葺の本殿ならびに拝殿の絵馬など一見に価するものがあります。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）
※昭和53年に屋根の葺き替え事業が行われ、拝殿は瓦葺き、本殿は銅葺きに替わった。

祇園大樋

C-4

・祇園大樋は旭川下流の左岸平野をうるおす古田樋尻川用水・新田用水・後楽園用水の五双からなる分水樋門の総称です。各樋門はいずれも長大で、樋板をしめると内部には昼間でも光が届かず、真暗闇となることから地獄樋とも呼ばれています。この大樋は元禄5年(1692)に津田永忠が新沖田を開発したとき、灌漑用水の確保をはかるため築造したものと推定されていますが、五双の樋門はその後たびたび改修されながら今日に引き継がれてきました。そのうち古田樋尻川用水の西樋（東から二番目の樋門）の一部については築造以来まったく改修の手が加えられておらず、築造に当った石工の技術水準の高さを示す堅牢・精緻な石首請のあとをよくとどめていました。このたび、このたびの改修工事にあたって、その一部をここに移築、復元し、後世にこれを伝えるとともに、築造当時の土木技術・石工技術をしのぶよすがとするものです。
（現地解説板〔岡山地方振興局・岡山市教育委員会、平成2年〕より）

備前国総社

（岡山市指定史跡）

C-3

・古代律令制下、平安時代末ごろまでには、ほとんどの国に総社が設けられました。総社とは、国司（国の長官）が逐一出向いて巡拝すべき各神社が、国内各所に分散して不便であるため、各祭神を国府の近接の一か所に合祀することで、参拝を略式化するために建てられたもので、国府直属の祭祀施設です。備前国の総社は、備前国府（推定地）の北西の丘陵に位置し、国司所祭の古社128の祭神を集めたものと伝えられています。成立の時期は定かではありませんが、およそ平安時代と考えられています。律令制崩壊後は、氏神として地域の信仰を集め、中世の神仏習合期に、岡山藩による寛文の神社整理（1666～1667）を経て、現在に至っています。現在の境内地付近には、放社の内一、同二、馬場といった字名が残っており、かつては一町四方におよぶ広大な社地が広がっていたと考えられます。現在の社殿は江戸中期のもので、幣殿の天井裏から室町時代前期の備形社僧（現安養寺に保存）が三体発見されました。
（現地解説板〔岡山市教育委員会、平成2年3月〕より）

高島神社

C-4

・祭神は神武天皇で、神社のある城山を一名高島山と言います。総社神名帳に正三位高島大明神と見えるのがこの神社であると言われています。神武天皇が東征する途中3年間（又は8年間）舟師をとどめられた吉備高島の旧跡と伝え、付近には備前国総社や、備前国府の遺跡があります。
（岡山市史〔岡山市史編集委員会編集、昭和37年10月1日〕より）

安養寺

C-3

・盥田山安養寺常行院といい、総社宮から東へ300mほどの龍之口山の尾根にあたる景観のよい位置に建設されている山上伽藍（山の上に建てられたお寺）で、寺伝によると報恩大師が天皇の命令によって建てられた備前48カ寺の一つで、宝暦年(1751～63)中に具法法印という僧が再建したと伝えられています。もともと山麓の常屋敷と呼ばれる場所にあったが跳ぬが悪いためか、現在の中腹に移されたといわれています。現在の本堂は大正年間に建立されたものですが、庫裡、客殿は一段低いところにあり山上伽藍の形式を備えています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

日吉神社

D-4

・大山咋命を祭神とする旧村社で旧賀田村の氏神、上道郡誌には由緒不詳とあり、おそらく延暦寺と日吉神社の関係のように、この地の天台宗安養寺が社僧として祭祀した神社でしたが、社寺整理のとき引き離して神官奉仕する神社としたのでしょう。吉備温故秘録上道郡脇田村の条に山王権現と載せています。社殿は、一間社流造の本殿と、入母屋造の拝殿、幣殿から成ります。
（岡山市史、宗教教育編〔岡山市史編集委員会編集・岡山市発行、昭和43年3月30日〕より）

唐人塚古墳

D-4

・安養寺を下って、参道の入口の前を流れる祇園用水にそって東へ100mほど行った山裾にある高さ４mの円墳です。大きな横穴式の石室（石の部屋）をもち、内部には石棺（石の棺）が安置されています。石室は全長13.6m、石棺を安置する玄室は、長さ5.3m、巾2.94m、高さ2.27m、羨道部の破損を計算に入れると石室の全長は15mをこえます。刳抜きの石室は、長さ2.21m、巾1.2m、高さ0.9mの凝灰石で蓋は失われています。唐人塚と言っても、特に唐の人の墓という根拠は何もありません。むしろ唐よりも韓の方で、朝鮮半島からの渡来人の墓とも考えられています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

賞田廃寺跡

（国指定史跡）

D-4

・賞田廃寺は、龍之口山の南山麓に建てられた平地伽藍（平らな場所に建てられたお寺）の古代のお寺です。昭和45年に発掘調査が行われ、塔・金堂・西門の建物の基壇と回廊や築地の基礎地形等の遺構が検出されました。なかでも塔と西門は凝灰岩製壇上積基壇に整備されていました。寺域は一町四方、伽藍配置は川原寺式あるいは薬師寺式と考えられていますが未掘部分が多く確定されていません。飛鳥時代の終わり（7世紀中頃）から鎌倉時代初め（13世紀）にかけての存続が判明していますが、最盛期は奈良時代後半で、その時に主要堂塔が壇上積基壇につくられました。寺域の北東隅からは、この寺院で使用した瓦を焼成した窯跡も発見されています。各時代の瓦や奈良三彩・緑釉・須恵器（窯焼きの土器）・土師器・中国製磁器などの遺物が出土しており、当時の生活の様子がしのばれます。この寺跡は中央にある寺に適合ないもので、当地を掌握していた上道氏の氏寺の一つと考えられています。昭和45年12月に国の史跡に指定されました。
（現地解説板〔岡山市教育委員会、平成5年6月〕より）

関白屋敷跡

E-4

この地は平安時代末期に平清盛によって備前に流された関白藤原基房の配所跡と伝えられています。基房は関白藤原忠通の二男として天養元年(1144)に生まれ松殿菩提院などと号して、長寛2年(1164)左大臣、仁安元年(1166)摂政、承安2年(1172)関白となりました。しかし基実の遺領相続をめぐって、清盛と対立し関白に進んでからは後白河法皇の後衛をえて反平家政策をとりましたが、清盛の憤りをかって関白職を解任され、治承3年(1179)には湯迫に流されました。備前における基房の配所がこの地であったことは古く江戸中期に編纂（文章を集め整理する）された「和気絹」にも記されています。また、この地に建つ（関白松公調居遺基碑）は、明和3年(1766)に岡山藩主池田継政が建立したものです。
（現地解説板〔白鷺閣建立〕より）
・浄土寺の境内より80mほど西の竹林の中に通称「関白屋敷」と呼ばれる古い屋敷跡があります。この屋敷跡は治承3年(1179)、時の関白藤原基房が、平清盛によって配流され、都育ちの貴族でしかも関白という要職にあった基房が、この草深い龍之口山裾で配所の月を眺めた跡と伝えられています。長い間荒れるにまかせていましたが、明和3年(1766)池田継政が遺跡を保存し、一株の松を植え、碑を建て今日に伝えています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

保存樹〔ヤブツバキ〕

E-4

・天明年間（江戸中期、1781～1788年）浄土寺の客殿・庫裡が再建された頃植えられたと伝えられています。紅白のめでたい寄植椿で、色は赤の濃い黒椿がほとんどで白は現在変色し桃色になって咲きます。延寿の椿の由来は、鎌倉初期に奈良東大寺再建の大勧進として活躍された後乗坊重源上人の延寿と椿の長寿とを相結び、元岡山市長横本富三郎翁が延寿の椿と命名されました。見頃は、早春～4月上旬です。
（現地解説板より）

・幹の周囲　(−)	・指定年月日　H2.3.15
・樹　高　7.8m	・指定番号　第52号

（保存樹一覧表〔岡山市都市整備局庭園都市推進課〕より）

浄土寺

（岡山県指定史跡）

E-4

・賀田廃寺より300mほど東に天台宗の湯迫山浄土寺の建物が閑静な木立の中に建っています。浄土寺の伝えによると、天平勝宝元年(749)報恩大師が天皇の命によって創立した備前48カ寺の一つであるとされています。現在の本堂、庫裡、山門、鐘楼などは、いずれも江戸中期の建物です。本堂は3間4面の入母屋本瓦葺で、薬師如来を祭っています。境内の杉木立に囲まれた一隅に、もと温泉であったという泉があります。伝承によると、いつ頃か、農家の牛がはまって（落ちて）死に、それ以後は全く温泉が出なくなったが、これと同時に伊予国の道後の温泉が出るようになったといわれています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）
・湯迫山浄土寺新成院という。天平勝宝元年報恩大師が勅命によって創立した備前48ヵ寺の一つで、中途衰微していたのを仁和、寛平年間に源仁僧都が再興しました（寺伝）。本尊は薬師如来で、寺中に本覚院・見明院がありました。往年は寺域も広く塔頭数院を擁し、天正文禄のころまでは124石の寺領がありました。付近に堂本・塔の坂・仁王堂などの地名が残っています。境内の杉林の中に湧泉があって、温泉の跡といい、湯迫（ゆば）の地名もこれによるものらしいといわれています。鎌倉初期東大寺再建の大勧進俊乗坊重源が、備前国府に滞在中、庶民の施療のため大湯屋を建てた遺跡として顧彫されましたが、この湧泉からは鎌倉時代の東大寺瓦や同期の浄土寺瓦が発掘されており、唐草瓦にある浄土寺の文字は重源の筆跡と伝わっています。塔頭であった見明院は北条時頼が廻国のとき滞留したという伝説があり、廃絶してからは時頼の遺品と云われる品々を浄土寺に保管しています。この寺といい、また米田の最明寺といい備前国府に近い寺院に、時頼の伝説があるのは一考すべきでしょう。
（岡山市史　古代編〔岡山市発行、岡山市史編集委員会編集、昭和37年10月1日〕より）

伊木氏玄蕃頭幸賢之墓

E-4

・伊木家岡山藩家老３万石、伊木玄蕃頭幸賢、分家伊木日向の二代目。寛永19年12月8日跡目相続をし、番頭（ばんがしら）ー５千石ーをおおせつかります。延宝2年11月26日病死(43歳)。主家池田家の安寧を願って岡山城の鬼門（うしとらの方角）にあたる竜の口山麓湯迫の地に埋葬されたと言い伝えられています。なお、ここより数百メートルの山上には、宇喜多氏が岡山城築城後、鬼門の護りとしておまつりした「毘沙門天」のお堂があります。
（現地解説板〔湯迫史跡保存会〕より）

備前国府大湯屋址

E-4

・天台宗浄土寺に鎌倉初期の僧・俊乗房重源がつくった大湯屋があります。重源は、東大寺再建のために備前国司となり、社会事業・土木事業・寺や神社の造営や修復を行いました。湯迫の大湯屋（県史跡）は、施療（病気の治療）のために建てたと伝えられています。
（岡山市史　古代編〔岡山市発行、岡山市史編集委員会編集、昭和37年10月1日〕より）

雄町の冷泉

（全国名水百選）

F-7

・この冷泉は、備前藩の御用水井戸で和気絹など古書にも見え有名でした。昭和61年環境庁が全国の名水百選を指定するにあたり、第一次に指定され最近特にその名を馳せています。水は、深みのあるやわらかい口あたりで、透きとおり茶会などに重宝されていたといわれています。
（岡山の名水〔川端定三郎著、岡山文庫発行〕より）
※現在、雄町の冷泉の源泉からは水をくむことができません。

おまちアクアガーデン

F-7

・岡山県内には、環境庁の「全国名水百選」に選ばれた湧水が３箇所ありますが、その１つが「雄町の冷泉」です。
この公園は、「雄町の冷泉」を保存し、市民の皆さまに水に対する関心を高めていただくため整備されました。（平成９年開園）
公園内には、「雄町の冷泉」の水くみ場のほか、豊富な地下水を利用した楽しい水の遊具が備えてあります。
（開園時間）午前９時から午後６時
（休園日）　毎月第１金曜日・第３金曜日・年末年始
（おまちアクアガーデン〔岡山市都市整備局庭園都市推進課〕より）

てくてくロード

岡山市には、温暖な気候に育まれた自然が多く残り、古備の国のもたらした古代の歴史的資源をはじめとする数々の歴史的、文化的遺産も多く、四季折々の風物も豊かです。しかし、車社会と呼ばれる今日では歩くことが少なくなり、これらの貴重な資源に触れる機会が減少し、歩くという健康的な活動から遠のいているといえます。このような状況を改善するため、岡山市では環境にやさしいまちづくりを進める一環として、ふるさと岡山をゆっくり歩き、身近な自然とのふれあいの場を提供する遊歩道の展開へ向けて「岡山市遊歩道ネットワーク（てくてくロード）」を策定しました。
遊歩道ネットワークが広く市民に活用され、ふるさと意識の醸成、歴史文化財への理解、さらに健康づくりに貢献することを願っております。

ルート内の主な公共施設

高島交番	TEL086-275-1374
百間川橋交番	TEL086-273-0943
八幡駐在所	TEL086-275-2542
岡山第一病院	TEL086-272-4088
ＪＲ高島駅	TEL086-275-5333
ＪＲ東岡山駅	TEL086-279-0026
宇野バス	TEL086-225-3311
両備バス	TEL086-232-2116
高島公民館	TEL086-275-1341
四御神郵便局	TEL086-278-3730
高島団地郵便局	TEL086-275-2215

岡山市遊歩道ネットワーク
《てくてくロード》
国府市場ルートマップ
第4版：2023年(令和5年)3月発行
岡山市

お問い合わせ
岡山市都市整備局道路都道路計画課
TEL086-803-1695（内線3646）

あきカン・ゴミは持ち帰りましょう

往来神社

I-6

・往来神社は東岡山駅の北東にあたる久那止山の山裾にあり、すぐ前をかつての山陽道が通っていました。備前国総社神名帳に記載してある神社であるが、昭和23年に出火したため、現在の本殿はその翌年に再建したものです。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団、昭和52年3月〕より）
（注.資料により往来神社とも呼ばれる）

石造鳥居

（岡山県指定重要文化財）

I-6

・この鳥居は香川県豊島産の凝灰岩（豊島石）で造られた明神鳥居です。総高は2.76mで、柱は豊島石の自然石に直立てとし、柱上に台輪をはめています。柱の直径は基部で0.37m、柱間は基部で2.16m、貫部分で1.94mを数え、貫はほぞで組み込まれています。島木と笠木は一個の石材を加工して造っており、その真反りと両端を垂直に切っているところなどに造立された時代の特徴をよく示しています。向かって右側の柱には「延徳2年庚戌閏9月吉日」、左側の柱には「大願主当村七郎兵衛」と刻まれており、この鳥居は室町時代後期の延徳2年(1490)に穴甘村の七郎兵衛が大願主となって造立したことがわかります。「往来社」と刻まれた額も造立当初のものです。この鳥居は高さのわりには柱が太く、どっしりとして全体のバランスもよく整っています。造立年代のわかる豊島石製の鳥居としては県下で最も古いものです。
（現地解説板〔岡山県教育委員会、平成3年10月吉日〕より）
・江戸時代以前の鳥居が現在まで残っているのは比較的少なく、全体に素朴で力強い感じを受けます。末社の砂山神社は、乳が良く出る婦人の神様として知られています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団、昭和52年3月〕より）

おすすめルート《JR東岡山駅》

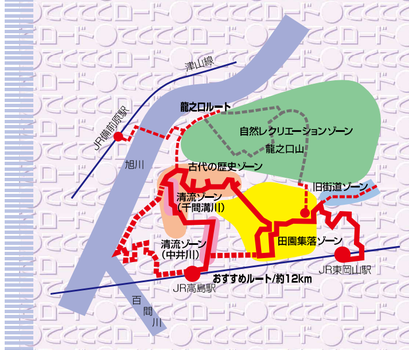
岡山市遊歩道ネットワーク てくてくロード❶

古き備前のふるさとを歩く

国府市場ルート

総延距離 約21km

国府市場ルートは、水のきれいな清流ゾーン、古代の備前国の歴史を伝える古代歴史ゾーン、その背景に控える龍之口グリーンシャワーの森を有する自然レクリエーションゾーン、条里制跡を留める広大な田園集落ゾーン、古いまちなみを残す旧街道ゾーンに大きく分けられます。おすすめルートは約12kmです。



水がきれいで親水性の高い中井川、千間溝川沿いの道

清流ゾーン

古代の備前国の中心地と伝えられる国府市場（備前国庁跡）

古代の歴史ゾーン

田園集落を流れる清流と条里制跡を留める田園風景

田園集落ゾーン

自然散策道の整った龍之口グリーンシャワーの森

自然レクリエーションゾーン

旧山陽道のまちなみ

旧街道ゾーン

大神神社

H-4

・車壁古墳よりおりて、団地の前の道路を東へ300mほど行った道路沿いの北側の山裾に社地を広げているのが大神神社です。延喜式神名帳（醍醐天皇時代901～923年に国中の神社を調査）に大神神社四座と記載されています。四御神と言われる地名も、大物主神（大国主命）以下四神を祭神としたところから由来したと考えられています。社記によると初めは、東尾根惣堂山の山上（138m）あたりにまつられていたらしいです。社地内には、近世の建造物と思われる随神門、本殿、拝殿などがあり、手入れもよく行き届いています。また、もともと南方にまつられていた末社である祢本神社、梨本神社も境内の小社にまつられています。境内東側を南方へ馬場道が通じているが、その途中に、天保2年(1831)辛卯四月吉日と年記のある鳥居と備前焼のこま犬一対が建立されています。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団編集、昭和52年3月〕より）

幡多廃寺塔跡

（国指定史跡）

D-8

・宇野バス清水停留所から東へ100mほどの田の中にあります。奈良時代（710～94）前期の平地に造築された寺院跡です。田んぼの中に礎面が東西249cm、南北203cm、地上約90cmの大きな塔の心礎（土台石）が残っています。昭和47年に発掘調査が行われた結果、寺の範囲は125m四方で、塔、金堂、講堂の各基壇（建物の下の土台）と東西南北の回廊などが検出されました。また、出土物の中には、県下では例の少ない奈良三彩の破片などがあり、幡多廃寺は、単なる地方豪族の氏寺ではなく奈良の中央貴族と深い結びつきのある有力豪族の氏寺であったと推定されます。
（岡山市の歴史みてあるき〔岡山市遺跡調査団、昭和52年3月〕より）